

政務活動報告書

会 派 名 櫻 鳴 会

年 月 日	令和 4 年 1 月 13 日 ~ 4 年 1 月 15 日			
場 所 (市外の場合は 行程を記入)	14日(金) ①午前9時30分...富山市役所 ②午後2時...金沢市役所			
	13日(木) 弘前 - 青森空港 - 羽田空港 - 東京駅 - 富山駅 (富山市内泊)			
	14日(金) 富山駅 - 金沢駅 (金沢市内泊)			
	15日(土) 金沢駅 - 小松空港 - 羽田空港 - 青森空港 - 弘前			
相手方 (会議名等)	14日(金) ①富山市視察 (富山市議会事務局、広報課、観光政策課) ②金沢市視察 (金沢市議会事務局、市民協働推進課)			
参加議員名	佐藤 哲、松橋 武史、坂本 崇			
活動の概要	別紙のとおり			
	※会議・研修資料等があれば、添付してください。			
活動に要した経費	主な品目	政務活動費相当額	領収書番号	支払証明書番号
	鉄道賃(羽田空港⇒東京駅) @660×3	1,980 円	3	
	新幹線(東京駅⇒富山駅) @12,270×3	36,810 円	4	
	旅費(交通費及び宿泊費) @65,450×3	196,350 円	5	
	旅行取消料()分	8,400 円	6	
		円		
		円		
合計額	243,540 円			
備 考	(写真貼付等) 別紙のとおり			



富山市議会事務局
議事調査課

主任
牧石 真理
Makiishi Mari

〒930-8510 富山市新桜町7番38号
Tel.076-443-2158 Fax.076-443-2196

立山あおく特等席。富山市

富山市役所 観光政策課

課長代理

石黒 智一
TOMOKAZU ISHIKURO

〒930-8510 富山県富山市新桜町7番38号
TEL.076-443-2072 FAX.076-443-2184

U R L : <http://www.toyamashi-kankoukyoukai.jp/>



富山市商工労働部
観光政策課

戦略係長
土田 香織
TSUCHIDA KAORI

〒930-8510 富山市新桜町7番38号
Tel.076-443-2072 Fax.076-443-2184



富山市企画管理部
広報課

係長
橋立 貴也
Hashidate Takaya

〒930-8510 富山市新桜町7番38号
Tel.076-443-2018 Fax.076-443-2171



金沢市
いっね金沢

議会事務局
議事調査課 書記

竹村 太志
Futoshi Takemura

〒920-8577 金沢市広坂1丁目1番1号
電話：076-220-2392



市民局 市民協働推進課
地域コミュニティ活性化推進室
室長 兼 課長補佐

吉田 彰
YOSHIDA Akira

〒920-8577 金沢市広坂1丁目1番1号
電話 076-220-2026 Fax 076-260-1178

五感に
ごちそう
かなざわ



市民局
市民協働推進課 主事

木原 竜彦

Kihara Tatsuhiko

〒920-8577 金沢市広坂1丁目1番1号
電話 076-255-0162 Fax 076-255-0164



令和4年1月14日

櫻鳴会 松橋 武史

富山市視察

シティープロモーションとシビックプライドについて

日本の人口は2008年から減少していき高齢者率は上昇する見込み。

富山においても2030年には、今と比べて約1.5万人、(そのうち15～64歳が約1.1万人を占める)が減少すると見込まれている。

シティープロモーションとシビックプライドの関係

シティープロモーションにはシビックプライドの醸成が不可欠。行政ばかりがプロモーションしている町は風格に欠ける。まちの良いところは市民の生活から生まれる文化そのもの。「選ばれるまち」には市民が広告塔になることが必要である。



ANA とシティープロモーション連携協定の締結 (平成 26 年 3 月 31 日)

- ① 地域ブランドの育成及び販路拡大
- ② 地域の観光資源を活用した観光振興
- ③ 地域の情報発信
- ④ シビックプライドの醸成

を目的に、ANA 総合研究所を連携協定を締結。世界でのフライト経験がある現役CAが「地域づくりマネージャー」として富山市に常駐し、モニターツアーやイベントなどを実施。そ

のほか機内誌や映像等により効果的なプロモーションを行う。

映画によるプロモーションや全国的なイベントの開催

映画「大コメ騒動」へ支援

TGC 富山の開催（2018.2019）

若年層に対するイメージ向上や観光客誘客・地域活性化を図ることを目的に絶大な人気を誇るファッションイベント「東京ガールズコレクション」を開催。

出身たれによる情報発信

特別副市長の委嘱

富山市出身の女優「柴田絵里」氏を特別副市長として委嘱。その情報発信力を活かしてシティープロモーションを図る。

令和4年1月14日

金沢市視察

「学生のまち・金沢」の推進について

学生のまちの定義

学生がまちを学びの場又は交流の場としながら、まちなかに集い、市民と親しく交流し、及び地域における活動等に取り組むほか、市民、町会等、高等教育機関、事業者及び市が一体となって学生の地域における生活、自主的な活動等を支援することにより、学生と市民との相互の交流及び学生とまちとの関係が深まり、にぎわいと活力が創出されるまち。



学都の歴史

金沢は、明治19年から20年に全国五学区の各学区において官立の高等中学校が設置された5都市のうちの一つ。その後、金沢市及び近郊に次々と高等教育機関が開学し、現在、18の大学、短大、高等専門学校と31の専門学校が集積。

学生のまち推進条例について

目的

地域社会が可能性豊かな学生を育み学生と市民との相互の交流や金沢のまちとの関係を深めながら学生のまちとしての金沢の個性と魅力をさらに輝き高めていく。

基本理念

学生を剥ぐぐむ社会的気運の醸成

学生の自主的な活動を促進
相互の理解と連携

学生のまちを進める施策

OPENCTIY in KANAZAWA

金沢まちづくり学生会議が主催し新入生に金沢の魅力と学生の活動を知ってもらうことを目的に市内をめぐるスタディーツアーや交流イベント等を実施。

学生等雪かきボランティア

地域における住民の除雪活動を学生グループが支援

金沢まちづくり学生会議

学生のまちの推進母体となる学生組織

まちなか学生交流において地元商店街等と協働で開催する「まちなか学生まつり」など、金沢の中心市街地の活性化に取り組む。

協働のまちづくりチャレンジ事業

クラブ・サークルなどの学生団体からの持ち込み企画の提案について、公開プレゼンテーションによる審査の上、市が支援。

まちなか学生まつり

金沢まちづくり学生会議が地元商店街と連携し商店街の出店や学生ブースのほか、特設ステージによる学生団体のパフォーマンスなどでまちなかを盛り上げる。

まちづくり活動相談窓口

学生などの自主的なまちづくり活動を支援するためコーディネーターが相談を受付

上記、富山市金沢市を視察する、この度、視察した内容を会派櫻鳴会のメンバーと情報共有し勉強、研究し市政に対し提言したいと考えている。

令和三年度 会派「櫻鳴会」

行政視察報告書

弘前市議会議員 佐藤 哲

富山県視察

① コリドールにエー30の推進事業

② 観光戦略について

金沢県視察

① 学生のまち、金沢の推進について

高山市 ① エタワロエ-エコシ 推進事業 について

② エタワロエ-エコシ と シビックプライド について

市民の意識調査

「すーと住みつけたい」
「ここで住みつけたい」) が 40%



地域に愛着を感じる市民を増やし、市民意識を醸成する事が重要である。

③ シビックプライド (CIVIC PRIDE) とは

自分はこの都市を構成する一員としてより良い場づくりに
する事に責任を持っているという誇りや意識に基づく自負心

結論 エタワロエ-エコシにはシビックプライドの醸成が不可欠
である。

④ 高山市が目指す都市構造

鉄軌道をはじめとする公共交通を活性化させ

その沿線には居住、商業、業務、文化等の諸機能

を集積させることにより、公共交通を軸とした拠点集中

型のコンパクトなまちづくり

⑤ エタワロエ-エコシ

① 全国への情報発信

② エコートア=ム-ビー

③ ANA との業務連携

④ 映画によるコリアノエーゼ

⑤ 全国的な近代化の促進

⑥ 「カラスの街と水」の推進

⑦ 「とてつと水」を扱ったコリアノエーゼ

⑧ ~~本誌~~ 本誌外による情報発信

以上の7つの項目により推進される。

○ コリアノエーゼの醸成に向けて

富山県出身の世界的写真家で市の政策参与である
テラウチマサト氏とプロデューサーとしての写真家として
実施

↓

自らの写真で日常を再発見しコリアノエーゼを
醸成していく。

市民等がモデルとなり建設後園を話し写真と
用いたデザインを掲出し市民の愛着を醸成する。

結論、この街に住む人々の何れか一部分を取り取り
とてつと水には意識を向けよう
としていく。

コリアノエーゼは富山県と市民に植えて
いくべきとてつと水は古い城下町と市民の感性と寄り添って
いくべきとてつと水は今求められている事と思う

② 富山県の観光戦略

- 東京一極集中から地方への新しい流れをつくらせよう。
- 富山自体は観光の魅力的な場所としては少ないが、周辺自治体と比べ宿泊施設は圧倒的に多い。

↓
富山県は便利な土地である。

- 水田率は日本一を有する。
- 昔からの製菓と売菓と利用したまちづくりと見せよう。
- 魚を中心とした食の魅力に訴えよう。

③ SNSによる発信 ⇒

AIチャットボットを始めている

- ✓ 観光名所
- ✓ 市内の交通案内
- ✓ イベント情報
- ✓ ゲーム

その他質問を受けて回答に
くれている。

金沢市

学生の手、金沢の推進について

① 学都金沢の形成

- ・ 藩学 明倫堂 (寛政8年～明治3年)
- ・ 金沢医学館 (明治3年～8年)
- ・ 石川師範学校 (明治7年～昭和26年)
- ・ 石川柴草内学校 (明治14年～明治21年)
- ・ 旧制第四高等学校 (明治20年～昭和25年)
- ・ 金沢大学 (昭和24年～)

② 現在の高等教育村の数

高等教育村数

20校 34,400人

市内学校 34校 34,400人

人口10万人あたり 石川県 全国一位

③ 学生の手推進条例の作成

「金沢市における学生の手推進に関する条例」平成22年4月1日施行

※ 学生と市民、学生と手との関わりを深める
全国初の条例

○ 金沢学生のまち推進会計 129002

構成メンバー

学識経験者、地域関係団体、市民活動団体
専業者団体に属する者

活動について

- 学生の地元祭りに参加
- マチ誌の編集、発行
- 高倉街のイベント

推進母体となる学生組織の発足

金沢まじつくり学生会の発足

令和3年度で第12期生

109大学が参加し60名が参加

○ 学生の活動拠点

「金沢学生のまち市民交流館」について

○ 「学生の家」と「交流ホール」から構成

学生の家は大正期の金澤町家を改修

○ 運営は金沢学生のまち市民交流館運営会が行う

委員は15名以内

○ 学生サポーター企業が存在する

現在登録企業は上場企業含む20社

○その他 市役所 における 学生 の まさか 居住、地域活動 促進 事業 について

○ 学生 の まさか 居住、地域活動 を 促進 する 為 に
新たに まさか に 居住 し、地域活動 を 行う 学生 の
奨励金 制度 を 令和 3 年度 から 実施

① 居住 奨励金 10 万 / 人

② 交通 費 助成 2 万 / 人

③ その他 金沢 文化 施設 共通 観覧 券 の
1 年 間 バス ポート 支給

○ 申込者 37 人 の うち 認定者 20 人

認定者 は 町会 や 公民館 等 の 地域活動 の 他
ICT 推進員 と して の 活動、金沢 マラソン ボランティア
金沢 検定 の 受験 等 を 実施

○ 学生 に かけ る 期待

① 地元 住民 と 違う 視点 を 持つ

② 新たな 価値 観、創造 的 感性 を 持つ

③ 常識 に 囚わ れ ず

結論

○ 行政 は ひと 学生 に 活動 の 場 を 提供 し て いく 必要 が ある と 思う

学生 の 自主 性 を 尊重 し、取り 組み を 通 じて 地域 等 の 課題 を

自分 で 見つけ、自主 的 に 解決 できる 人材 を 育成 し て いく
と かけ ぎ 市 は 学 部 を 提供 する 以上、弘大 以外 の 学生 と の 横 の 繋 ぎ を 取 っ て
学 生 同 間 の つ な が り を 保 っ 持 し て いく 必要 が ある。 以上

令和3年度政務活動報告

1. 活動日時 令和4年1月14日（金） 9：30～11：30
2. 視察場所 富山県富山市
3. 視察項目 (1) 富山市のシティプロモーション推進事業
(2) 富山市の観光戦略
4. 視察内容

(1) 富山市のシティプロモーション推進事業

富山市は、人口減少と高齢化社会へ対応するため、持続可能なコンパクトシティ形成を推進している。目指す都市像として「人が集い、人で賑わう、誰もが生き活きと活躍できるまちを」を掲げ、3つの目標、第1に公共交通・都市空間「公共交通の強化と魅力ある都市空間の創出」、第2に商業・賑わい「伝統と革新が融合した商業・賑わいの再生」、第3に暮らし「誰もが生き活きと暮らし活躍できる選ばれるまち」を柱に中心市街地活性化を推進している。

シティプロモーションは目標第2の商業・賑わいに位置づけ、同時にシティプロモーション事業推進にあたり、市民もまちを形成する一部であるという当事者意識を持ち自らが広告塔となって推進することが重要であるという見解から、市民の当事者意識を醸成するためのシビックプライド醸成事業を目標第3の暮らしに位置づけ、一体となって中心市街地の活性化を図っているのが特徴となっている。

事業実施の背景として、本格的な人口減少時代が到来し、2050年には日本の総人口が1億人を下回ることが予想される中、人口が減少するのは避けられなくても、富山市の住民減少速度をスローペースにしよう、更には北陸新幹線開業に伴うストロー現象の懸念もあり、あらゆる人から「選ばれるまち」となるよう、平成21年度から26年度まで5年の歳月をかけてシティプロモーション推進計画の策定に至っている。シティプロモーションを切り口に富山市のまちづくりについて説明をいただいた。

① シティプロモーション事業の概要

- ・幅広い層をターゲットに全国規模の雑誌やテレビ番組等に富山市のまちづくりや食、自然、菓などの魅力をテーマとした特集を組んでもらい、読者、メディア、旅行会社等への波及効果を狙う情報発信事業を展開している。
- ・多くのアニメキャラクターを保有し、オリジナルアニメーションの制作やキャラクターを私用したマーケティング事業を展開する株式会社DLEと連携し、「富山市立探偵ペロリッチ」

- を作成、このキャラクターを活用し、富山市の魅力を伝えるショート アニメムービーを制作し、WEBサイト、Twitter 等の SNS 等を通じ情報を発信している。
- ・ANA総合研究所との協定締結による連携事業を実施。ANAグループと連携し、現役CAを地域づくりマネージャーとして富山市に常駐派遣してもらい、外部からの視点、ノウハウで魅力ある資源の発掘・発信、モニターツアーの企画・実施等に取り組んでいる。
 - ・映画によるシティプロモーションを目的に平成23年度に「富山フィルムコミッション」を設立。「全国ロケーションデータベース」に富山市内のロケ候補地登録。近年は富山市を舞台とした映画「大コメ騒動」の制作を支援。市出資金として2千万円（全体出資金の11.65%）を出資。県内エキストラ延べ232人（市職員18人）が撮影に参加している。
 - ・平成30年、令和元年に若年層に対するイメージ向上や観光客誘致、地域活性化を図ることを目的に近年絶大な人気を誇るファッションイベント（東京ガールズコレクションの富山版を開催、「富山でも全国規模の最新ファッションイベントが開催できるんだ」という地域に対する誇りの醸成につながった。
 - ・第二次世界大戦で歴史的建造物が焼失し、市の歴史を前面に出したプロモーションが難しいことから300年以上の伝統受け継ぐ「富山の売薬」にガラスの薬瓶が使用されていた歴史を踏まえ、「ガラスの街 富山」の推進し、富山ガラス美術館やガラス工房等の施設を観光資源とし、PRを行っている他、新色素材ガラスの研究開発等に力を入れ、ガラスに特化したまちづくりを行っている。
 - ・女優・タレントとして活躍されている富山市出身の柴田理恵さんを「特別副市長」として委嘱し、様々な媒体で富山市のPRを展開している。

② シビックプライド醸成事業の概要

- ・市民一人ひとりが「自分のまち」に対して愛着や誇りを抱く「シビックプライド」を醸成することが、シティプロモーションにとって重要であるという観点から「AMAZING TOYAMA」をキーワードに、シビックプライドの醸成事業を行っている。具体的には市中に「AMAZING TOYAMA」のモニュメント設置や、バス停広告などのシティスケープ、市職員の名刺の裏側にAMAZING TOYAMAを掲出し、市民一人ひとりの暮らしの中にある「AMAZING TOYAMA」を表現するなどシビックプライドの醸成に努めている。
- ・世界を舞台に活躍する富山出身の写真家テラウチマサト氏をプロデューサーとした写真プロジェクトを実施し写真を通じたシビックプライドの醸成を行っている。市民が写真撮影を通じて富山市の街の魅力を再発見し、自ら撮影した写真でその魅力を発信する機会を創出している。
- ・大学進学などにより県外へ転出した若年層をターゲットに富山市の豊かなライフスタイルを紹介する冊子を制作し、実家からの仕送り等の際に同封し、県外にいる子供が冊子を見ることで、現在の富山の今を感じてもらい、卒業後に地元に戻ってくるように、また、移住のきっかけとなる取り組みを行っている。
- ・まちなかの再開発事業等における建設仮囲いに市民の写真を用いたデザインを掲出し、施設整備に対する理解や期待感の高揚、まちへの愛着を醸成する事業を行っている。このことにより完成後の建物への愛着も生まれる等の効果がある。
- ・市民一人ひとりが、自分たちの住む地域に愛着や誇りを醸成することを目的に、自治体として

は全国で初めて市民の暮らしをテーマとしたムック本「富山市 by AERA」を制作。

- ・華やかで明るい空間を演出し、「花で潤うまち」を創出するため、指定の花屋で花を購入し、市内電車等に乗車した人の運賃を無料にする事業を実施。市内 26 店舗が参加。延べ 6,000 人以上が利用。

(2) 富山市の観光戦略について

富山市は北陸新幹線開業効果を持続させ、多くの外国人観光客の訪日が見込まれる 2020 東京オリンピック・パラリンピックを見据え、今後の様々な状況変化に対応できるよう体制を構築し、富山市の将来に向けた新しい流れを作り出すことで、観光のみならず、経済、社会、文化面等において、「選ばれるまち」を目指し、戦略的な観光振興に官民一体となって取り組んでいる。その観光戦略について説明いただいた。

① 観光戦略の概要

- ・富山県は立山や劔岳など雄大な自然が魅力であり。立山黒部アルペンルートはロープウェイやケーブルカーなどの個性豊かな乗り物を取り継いで縦断する人気の山岳観光ルートとなっている。道中には黒部ダムやみくりが池などの見どころが人気。食の面ではブリや白エビ、紅ズワイガニなど富山湾で捕れた新鮮な海の幸等がある。また、金沢、飛騨高山、白川郷等の観光地とのアクセスも良い。富山市は宿泊施設が多いことから、富山市を拠点とした広域観光交流拠点としての都市機能強化に努め、新幹線からの二次交通の利便性向上に力を入れており、こういった特性を活かした特別感のある MICE を推進し、コンベンション開催支援事業、国際競技大会誘致・開催支援、合宿・修学旅行誘致等を積極的に行っている。
- ・富山ならではの地域資源・観光資源の発掘と魅力向上、富山ブランドの育成を目指し、伝統のある「富山の売薬」を活かした「ガラスの街づくり事業」を推進している。主な事業として、「富山のくすり」宣伝事業、「富山やくぜん」普及推進事業、富山のガラスプロデュース事業等が実施し富山ブランドの育成とマーケティング強化に力を入れている。
- ・2020 年からスマートフォンで顔写真とクレジットカード情報を登録すると、駅に設置されたサイネージでウェルカムメッセージが表示されるほか、専用端末が設置された市内の 30 店舗で顔認証決済ができる顔認証システムの社会実験を実施。これで得たデータにより富山市の観光実態の可視化することができ、また、新型コロナウイルスが猛威を振るう昨今において、感タッチレス化への需要が増していることから全国各地から注目を集めている。

5. 所感

富山市は、人口減少と高齢化社会への対応をするため、2007 年に、将来を見据えてコンパクトシティ戦略を打ち出し、「公共交通機関の活性化」、「公共交通機関周辺への居住促進」、「中心市街地の活性化」を目的に持続可能なコンパクトシティ形成を推進している。

富山市が描いたコンパクトシティ戦略は、路面電車やバスなどの公共交通機関を活性化させ、その沿線に住居、商業、ビジネス、文化などの都市機能を集積させることにより、中心市街地の活性化を目指すもので、「公共交通をもう一度ブラッシュアップすること」「交通の便利な地域へと市民をゆっくりと誘うこと」「中心市街地に足を運びたいくなるような魅力を持たせること」という 3 つ

の政策をコンパクトシティ戦略の柱としている。この戦略の肝となっているのが「シティプロモーション」の推進と「シビックプライド」の醸成である。市の PR は行政だけでやるものではなく、そのまちに暮らす市民一人ひとりが「まちの一部」として当事者意識を持って官民一体となって進めて行くには、まずは「まちに対する誇り」を育む「シビックプライド」の醸成を併せて行うことが大切であるということに着目した秀逸な施策である。

シティプロモーション推進計画策定の前段の取り組みとして、平成 18 年度～19 年度にかけて、市の若手職員有志による研究会が立ち上げられ、その中で富山市民が持つ富山市のイメージと、他所の人から見た富山市のイメージのイメージギャップ調査を実施する等、市の職員が率先して真剣に富山市の将来を考え始めたことが礎となっている。官民一体となって自分たちの暮らす富山市に誇りを持ち、まちの魅力を発信して行くためには、まず、市職員が率先して進め、市民を巻き込んで行くんだという姿勢を感じた。

富山市の総人口は、日本及び富山県全体と同様に減少傾向であるが、こういった戦略が功を奏してか、近年、社会増（転入・転出）が続いていて、人口減少率は、富山県全体と比較すると鈍化しているという。本格的な人口減少時代が到来し、全国各地が、この問題の解決に頭を悩ませている中で、人口が減少するのは避けられなくても、住民減少速度をスローペースにしようという考えに基づいた戦略は、見習うことが多い。

富山市を訪れる観光客が富山市内で宿泊する理由は「観光地（目的地）を周遊するのに便利だから」次いで「交通アクセスが良かったから」となっているということで、金沢、高山等の近隣の有名観光地を周遊するのに立地が良いという特性を活かした観光戦略を打ち出している。北陸新幹線開業により、金沢を訪れる観光客が増加したことにより、富山市を訪れる観光客も増加している。特に外国人観光客の宿泊数の増加が著しく増加傾向にあり、インバウンド対策については、観光戦略プランの強化戦略に位置づけている。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響で、現在は苦戦が続いている状態とのことであった。

金沢や高山などの近隣観光都市と比べると、富山市の中心部は空襲を受けたため歴史的な街並みが少なく、歴史の濃いまちではあるが、それをセールスポイントにできない。しからば無理に観光地化を目指さず、富山市の特徴である宿泊施設が多い、交通アクセスが良い、という部分を活かした広域観光交流拠点としての位置づけ、コンベンション開催支援等、MICE に力を入れた戦略は理に適っていると感じた。

当市の DMO を構成する津軽 14 市町村に当てはめれば弘前市は JR 奥羽本線、五能線、弘南鉄道大鰐線、弘南線が結節するハブであり、広域観光交流の拠点となる性格を持つことから、富山市の施策はアイデア面で応用できる部分が多々あり参考となった。



以上

令和3年度政務活動報告

1. 活動日時 令和4年1月14日(金) 14:00~16:00
2. 視察場所 石川県金沢市
3. 視察項目 学生のまち・金沢の推進について

4. 視察内容

金沢市内及び隣接する自治体には現在、20の大学・短大・高等専門学校と34の専門学校が集積する。旧制第四高等学校(現・金沢大学)以来の伝統を引き継ぐ「学都」としての歴史を刻み、学生数は約3万5千人を数え、人口10万人当たりの高等教育機関数では石川県が全国1位。人口1000人当たりの学生数は全国第4位である。

大学の郊外移転により市中心部に大学が存在しなくなり、市民とのかかわりが希薄化する状況等を踏まえ、学生と市民、学生とまちとのかかわりを深めるため、全国初の条例として「学生のまち推進条例」を平成22年4月に施行。学生当事者の組織として「金沢まちづくり学生会議」を設置し、学生を支える地域団体「学生のまち地域推進団体」を設置、これらの活動を総合的に推進するための組織として「金沢学生のまち推進会議」を設置し施策展開を推進している。

学生数が多く古くから学都を標榜する弘前市としても参考となる取組が多いことからその事業概要について説明を受けるとともに、学生の活動拠点となる金沢学生のまち市民交流館を見学した。

① 事業概要

- ・事業実施の背景として、平成期の大学の郊外移転等により、学生と市民が普段の暮らしの中で親しく交わる等の機会が減り、昔に比べて金沢の学都としての情景が薄まることに危機感を感じ、学生と市民、学生とまちとの関りを深めるために平成22年に「学生のまち推進条例」を施行。
- ・「金沢まちづくり学生会議」は現在第12期生となり、10の大学から60名が参加している。これまで繁華街に学生が集い大人との交流ができるエリアづくり活動やそれを多くの学生へPRするための交流街MAPの作成を行う等の活動している。また、地元住民との連携を深めることを目的に地元商店街と「まちなか学生まつり」や、地元婦人会との金沢料理をつくる会等の活動を行っている。
- ・「学生のまち」の推進を支援する「学生サポーター企業」を募集し、学生と企業の相互交流の機会を広げ、まち全体で学生を育む仕組みをつくっている。現在、上場企業を含め20社が登録している。

- ・平成 27 年度から女子学生の情報収集力、発信力を活かし、金沢の伝統工芸や食文化などについて、企業と連携し商品開発を行う「かなざわ娘」プロジェクトを実施。このプロジェクトによる加賀友禅のくつひも等の開発が注目を集めている。
- ・学生を対象にまちづくり企画を公募し、優れた企画を行政との協働により実現する「協働チャレンジ事業」を実施、学生の創造的で自主的なまちづくり活動を支援している。
- ・平成 18 年度から町会と学生グループ（体育サークル等）が協定を締結し「学生雪かきボランティア」を実施。令和 3 年度は 23 組の学生グループが協定を締結。
- ・学生のまちなか居住、地域活動を促進するため、新たにまちなかに居住し、地域活動を行う学生への奨励金制度（居住奨励金 10 万円、交通費女性 2 万円、金沢文化施設共通観覧券年間パスポート支給）を実施。申込者 37 人うち認定者数 20 名。認定された学生は町会や公民館等の地域活動の他、ICT 推進員としての活動、金沢マラソンボランティア、金沢検定の受験等が義務づけられる。

② 金沢学生のまち市民交流館（見学）

- ・金沢学生のまち市民交流館学生と市民との交流、情報交換等を通じて学生とまちとの関係を深めるとともに、自主的なまちづくり活動を支援することで、協働による市政の推進を図ることを目的に、金沢市のまちなかである片町に平成 24 年 9 月に開館。
- ・建物は金沢市指定保存建造物である大正時代の金澤町屋を改修した「学生の家」と旧料亭「かわ新」大広間の部材を用いて新設した 130 名収容可能な「交流ホール」からなる。「学生の家」1F はサロン等のスペースになっており、2F には 4 室の和室があり、学生団体や、まちづくり団体が使用できる貸室となっている。
- ・運営は学生、地域住民、まちづくり市民団体、高等教育機関関係者等 15 名の委員で構成する「金沢学生のまち市民交流館運営会議」が行っている。学生及び市民のまちづくり活動の相談窓口として金沢市内で様々な分野で活躍する著名な 4 名のコーディネーターが日替わりで常駐し、まちづくりや学生のキャリア相談等にのっている。

5. 所感

今回の視察で特に印象的であったのは、「金沢学生のまち市民交流館」である。まちなかの繁華街の一角にある金沢らしい趣のある町屋を改修したこの施設は、郊外にある大学と、市民の結節点であり、繁華街の中という立地ということもあって賑やかで学生が街にかかわるには最高の場所であった。見学時も多く学生の団体の会議や学生劇団の練習が行われており、このような空間が弘前のまちなかにあれば学生と地域をつなぐ活動がもっと活発になるかもしれないと強く感じた。

歴史的にも学都として、学生を育みながら発展してきた金沢市であるが、学生のライフスタイルの変化や多様化する価値観等、時代とともに変わってきている。学生にける期待として、せっかく金沢で学んでいるのだから、金沢でしか体験できない学生生活を過ごし、金沢のまちの資源である歴史・文化を身近に感じてほしいという担当者の思いは、学生の多い当市にとっても同様である。長引くコロナ禍により、現状はその思いがなかなか成就しづらい状況にあるが、金沢市の先駆的な取組から多くのヒントと勇気をいただいた。今後の当市の学生との協働によるまちづくりの参考としたい。

以上

